

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立中央聴覚支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「つながろう みんなと 飛び出そう、社会へ」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校に関わる全ての人が人権尊重の高い意識を持ち、安全に安心して学ぶことができる学校 2. 子どもたちが自身の将来像をイメージし、それに向けて必要な力を身につけることができる学校 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ことばを育む」「わかる授業づくり」を進め、基礎学力の定着を図るとともに、豊かなコミュニケーション力の向上を図る。 (2) 将来の自己実現をめざし、一貫したキャリア教育に取り組み、自主性・社会性を育む。自らの学びを他校や地域社会へ情報発信する力を育む。 3. 教職員が自分の役割を理解し、責任感を持って生き生きと業務に向かうことができる学校 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもたちの自ら学ぶ力を伸ばすために、研修や校内研究を充実させ、聴覚障がい教育を中心とした支援教育全体の専門性の向上を図る。 (2) 1人1台端末の有効な活用をめざし、教職員の ICT 活用のための研修を行い、活用に関わる知識や技能を向上させる。 4. 地域や地域の学校園とのつながりを深め、聴覚障がい教育のセンター的機能を果たす学校
事業目標	<p>聴覚支援学校では、授業や行事等において、子どもたちの聴覚障がいの状態に応じた視覚的な情報保障が重要である。本校では、手話での説明に加え、ICT 機器の活用により、文字、音声、画像を統合的に発信し、子どもたちの個々のニーズに合わせて情報を獲得している。（文字情報システムによる緊急時放送や、電子黒板やタブレット端末等を活用した授業・HR 活動等）</p> <p>そうした中、遠隔コミュニケーションロボットやオンラインを活用することにより、さまざまな進路実態を知り、自らの将来像を描きやすくし、日々の学習意欲の向上につなげたい。また、固定化された学校内だけの活動にととまらず、オンラインやロボットを通じて他校との交流を深化させる。さらに、オンラインによる合同授業を実施し、初めて関わる子ども達とテーマを決めた意見交流をすることで視野を広げ、物事を多面的、多角的に捉える力を伸ばすとともに、自らの学びを地域社会に情報発信する力を育む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICT 機器の活用や視覚支援を充実させ、「見てわかる授業」を展開することで、児童・生徒の言語力を高め、表現を豊かにしたり、論理的思考力を高めたりする。 ② 遠隔コミュニケーションロボットを活用し、卒業生の活動に触れたり、さまざまな職場体験を行ったりすることで、自己の将来像を描きやすくし、キャリア発達を支援する。 ③ 継続的してきた学校間交流を発展させ、オンライン等を活用しながら、多くの人と意見交換を行う合同授業を実施し、SDGs などテーマを持った活動に共に取り組み、幅広い仲間とつながる。

	④ 同世代のみの交流にとどまらず、自らの学びを地域や社会に発信し、校内外を越えた豊かなコミュニティを形成する。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付き超単焦点プロジェクタ（壁取付式）、電子黒板 kubi テレプレゼンスロボット、液晶ペンタブレット、ペイントソフト、マグネット式スクリーン、160 インチスクリーン
取組みの 主担・実施者	・ プロジェクトチーム 首席、情報教育部長、進路サポート部長、各学部主事、有志 ・ 実施者 学部でのまとまりを基本し、学年や学部の子どもたちの活動に関わる全ての教職員。
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見てわかる授業 ICT 機器の活用や視覚支援を充実させ、「見てわかる授業」をめざし、各学部で教職員の研究授業・保育を行った。また英語等の専門家（大学教員）を招聘し、新任教員の授業を参観、助言をいただいた。全校を挙げて令和 6 年度はじめに作成したグランドデザインに基づいて、児童生徒の言語力を高める取り組みを各学部・各教科で進めた。 ・ 交流の充実 学校間交流を昨年度から継続かつ新規開拓を対面・オンラインにて行った。また今までのオンライン等を活用した交流授業等の取り組みを聴覚障害教育の全国研究会において発表した。 ・ 発信力を身につける 部を超えて、先輩が後輩の学部に出前し発表するなどの機会を、各学部の朝会や総合の時間等で設けた。1 月には中学部生徒が大阪府の学校保健大会で、自校の幼稚部・小学部に対して行った取り組みについて発表した。 ・ キャリア教育 講師を招聘し、児童生徒が卒業生の活動に触れたり、さまざまな職業についている聴覚障がい者について知ったりする場を各学部で設け、自己の将来像を描く機会を作ってきた。また教職員対象にもキャリアに関する研修を設けて、聴覚障がい者の就労について知識を得ることができた。
成果の検証方法 と評価指標	<p>学校教育自己診断、授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 児童・生徒、保護者の「見てわかる授業の満足度」の肯定率を 85%以上とする。 ② 教職員「ICT 機器活用力」の肯定率を 80%以上とする。 ③ 児童・生徒「交流が楽しい、世界が広がった」の肯定率を 80%とする国内外の学校園と交流会を行う。SDGs や防災の取組み等を地域へ発信し、共に取組むコミュニティを形成する。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見てわかる授業 学校教育診断の集計結果によれば、質問「授業がわかりやすい」に対する肯定回答を、児童・生徒より平均 93.6%、保護者より 78.9%得た。……………（○） ・ 交流の充実 学校教育診断の集計結果によれば、交流に関する質問に対して肯定回答を、児童・生徒より平均 84.5%得た。……………（○） ・ 発信力を身につける 本校中学部生徒の保健活動が評価を受け、令和 6 年度 全国健康づくり推進学校最優秀校の表彰を受けた。中学部のみならず全校挙げての取り組みの成果ととらえている。（◎） ・ キャリア教育 学校教育診断の集計結果によれば、キャリア教育、進路指導に関する質問に対して肯定回答を、児童・生徒より平均 84.4%、保護者より 82.7%得た。……………（○）

事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・機器設置や ICT 環境の整備が進んだため、授業や交流における活用の機会が増えた。教職員の聴覚障がい児・生徒の特性に合った授業に対する意識が高まった。交流の場や相手が増えたことで、児童生徒たちが音声、手話、筆談等を活用して他者とのコミュニケーション方法を工夫し、かつ通じ合える喜びを味わうことができた。自分の障がいについて他者に説明する機会も増え、キャリア教育に結びつくことができた。 ・教職員が部を超えて集まり意見を出し合ってまとめたグランドデザインは、3つの柱「ことばを育む」「人とつながる」「未来を切り拓く」のもとにあり、本事業の目標とほぼ一致している。本事業は完了となるが、これを継承する形で、今後もことばを育むために、ICT等も活用した「見てわかる授業づくり」、人とつながったり、未来を切り開く準備をしたりするために、交流の促進や発表・発信の場の拡大、キャリア教育の充実に向けて、教育活動を続けていく。
--------	--

3. 事業費報告

今年度事業費総額	70,320 円
----------	----------

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	1 報償費	1	講師謝礼	¥20,000	1	¥20,000
		2	講師謝礼	¥20,000	1	¥20,000
					小計	40000
		1	講師旅費	¥15,160	1	¥15,160
					小計	15160
	3 消耗需用費	1	プリンターインク	¥13,120	1	¥13,120
		2	ラミネート用紙	¥2,040	1	¥2,040
					小計	15160
					合計	¥70,320